

5. 登録に関する注意

理 工 学 部 共 通

2025年度登録に関する注意

●登録は、本年度の学習、さらには学生生活にとって大変重要である。思い違いや登録ミスによって不利益を被ることがあるため、登録にあたっては登録要領、履修要項、開講科目一覧を熟読のこと。

1. 年間登録単位数について

年間登録制限単位数は **48単位**、春学期・秋学期の登録上限は **各30単位** までである。

2. 二重登録の禁止

同一授業時間に重複して登録することはできない。また、複数のクラスがある科目は、いずれか1クラスしか登録できない。

3. 科目登録について

定められた登録期間内に科目登録を行うこと。DUETでの科目登録完了後、大学から付与しているメールアドレス宛に登録完了のメールが届くので、必ず内容を確認し、自身の科目登録が正しく登録できているか確認すること。

登録完了メールが不着の場合は、科目登録が完了していないため、注意すること。

(科目登録期間後にDUETの操作ミスや認識違いによる科目登録の不備の修正、変更はできない。)

4. 先行登録について

科目(クラス)ごとに登録日時、場所、方法が異なります。どの科目が先行登録科目であるかは開講科目一覧で、登録日程や会場、方法等については登録要領(本冊子)および掲示で確認すること。

なお、クラス決定後の登録変更は認められないので、十分に注意して登録すること。

5. 登録科目確認とエラー修正について

科目登録期間終了後、4月15日(火)よりDUETにて登録科目確認表がダウンロードできるので、自身の登録科目について、必ず確認すること。

登録に不備(エラー)があった場合は、各自の責任で必ず所定のエラー修正期間に修正手続をすること。期間内に修正せず、エラーを放置した場合には、登録エラーに関する科目を大学が全て**強制削除**する。

6. 履修中止について

科目登録を行い、授業開始後1ヶ月程度授業を受講した結果、望ましい評価が得られないと判断した科目については、各学部・研究科が定める科目を除き、登録科目の履修中止を認める（履修中止期間中に開講学期の科目登録変更、追加は認めない）。ただし、履修中止ができない科目もあるため、詳細は掲示または DUET の「事務室からのメッセージ」を確認すること。

7. 教員免許状取得について

教員免許状取得を希望する者は、「免許・資格関係 履修要項」や「教職課程説明会」を参考にし、計画的に履修すること。

8. 卒業論文指導の要件について

- a) 履修要項に記載されている要件および卒業必要単位（最少）数表について、よく理解しておくこと。
- b) 卒業論文指導要件の単位数には、卒業必要単位数を超えて修得した単位は算入されない。従って、総修得単位数が所属学科の定める進級必要単位数に達していても卒業論文の指導を受けられない場合があるので注意すること。
- c) 特に卒業必要単位（最少）数表に必要単位数が記載されていない科目区分については算入される単位数について注意すること。
- d) 以上のことは、卒業要件の単位数についても同様である。

電気系学科

2025年度登録に関する注意

- 登録は、本年度の学習、さらには学生生活にとって大変重要である。思い違いや登録ミスによって不利益を被ることがあるため、登録にあたっては登録要領、履修要項、開講科目一覧を熟読のこと。

1. ○2024年度生

修得単位が30単位以下の者は、4月3日(木)の登録相談日にKD202(14:00~16:00)で教務主任又は教務副主任に指導を受けてから登録すること。

○2023年度生

修得単位が60単位以下の者は、4月3日(木)の登録相談日にKD202(14:00~16:00)で教務主任又は教務副主任に指導を受けてから登録すること。再履修科目は原則として低学年の科目から履修すること。

○2022年度以前生

a) 卒業論文指導可の者(卒業見込生)

- ・卒業および免許取得のため時間割が重なっている場合は、4月3日(木)の登録相談日にKD202(14:00~16:00)に行くこと。
- ・特別講義B(秋学期火曜日3・4講時、講義日程は秋学期開講前に掲示)の未修得者は、できるだけ履修すること。
- ・卒業論文の登録クラス(クラスコードは開講科目一覧参照)は、後日掲示および大学から付与されたアドレスに送付される電子メールにて発表される研究室配属調査結果で確認の上、指定クラスを登録すること。(別途配付の「卒業研究希望調査」参照)

b) 卒業論文指導不可の者

- ・修得単位が60単位以下の者は、上記の登録相談日に教務主任又は教務副主任に指導を受けたのち登録すること。

2. クラス指定される科目について

a) 電気回路学Ⅰ・Ⅱ、電気磁気学Ⅰ・Ⅱ、コンピュータプログラミングⅠ

初めて登録する者：指定クラスは掲示板、DUETを参照すること。

再履修生：クラス④を登録すること。

※電気回路学Ⅰ、電気磁気学ⅠおよびコンピュータプログラミングⅠについては、春学期にクラス①~③を登録し不合格になった者は、秋学期開始前の一般登録科目変更期間にクラス④を登録すること。

また、卒業論文指導(4年進級)要件を満たしている2022年度以前生が登録を希望する場合は、春学期一般登録期間に理工学部事務室に行くこと。

b) 2023年度以降生

解析学Ⅰ・Ⅱ、線形代数学、ベクトル幾何、微分方程式、フーリエ解析、複素解析
(※微分方程式、フーリエ解析、複素解析は2年次配当科目)

2022年度以前生

解析学Ⅰ・Ⅱ、ベクトル幾何、微分方程式、フーリエ解析、複素解析

初めて登録する者：指定クラスは掲示板、DUETを参照すること。

再履修生：クラス指定なし

- #### c)
- 以下の科目については、電気工学科はクラス①、電子工学科はクラス②を登録すること。
基礎物理学Ⅰ・Ⅱ、基礎物理学Ⅱ演習、電子回路、電気・電子計測Ⅰ、電子デバイスⅠ、ディジタル電子回路、コンピュータプログラミングⅡ

3. 指定外クラスへの移行

指定外クラスへの移行は原則として認めない。

例外として必修科目同士が時間割重複した場合および必修科目とA I - I aが時間割重複した場合にのみ認められる。(3年次生以上は免許の必修科目も含む)

なお、卒業見込みの者については、時間割重複した科目のうち、少なくとも一方が必修科目(電気主任技術者資格取得に必要な科目を含む)である場合にのみ認められる。(免許の必修科目も含む)

振替を希望する者は4月3日(木)の登録相談日にKD202(14:00~16:00)にて申し出て、所定用紙に記入し、許可を得ること。(各自印刷した成績通知書持参のこと)

4. 卒業論文指導(4年進級)要件について

- a) 履修要項に記載の要件および卒業必要単位(最少)数表についてよく理解しておくこと。
- b) 卒業必要単位(最少)数表に記載の卒業必要単位数を超えて修得した単位は卒業論文指導要件の単位数には算入されない。従って、総修得単位数が102単位に達していても卒業論文の指導を受けられない場合があるので注意すること。
- c) 特に卒業必要単位(最少)数表に必要単位数が記載されていない科目区分については、算入される単位数について注意すること。
- d) 以上のことは、卒業要件の単位数についても同様である。

機 械 系 学 科

2025 年 度 登 録 に 関 す る 注 意

●登録は、本年度の学習、さらには学生生活にとって大変重要である。思い違いや登録ミスによって不利益を被ることがあるため、登録にあたっては登録要領、履修要項、開講科目一覧を熟読のこと。

1. クラスの振替は、必修科目（A群Ⅰ類（必修選択科目）を含む）同士が時間割重複した場合においてのみ認められる。（1年次生はB群Ⅰ類・Ⅱ類で特に機械系教務主任が認めた科目、3年次生は免許の必修科目も含む）

なお、卒業見込みの者については、クラス振替は、時間割重複した科目のうち、少なくとも一方が必修科目（A群Ⅰ類（必修選択科目）を含む）である場合にのみ認められる（免許の必修科目も含む）。

振替を希望する者（2024年度以前生）は登録相談（4月3日（木）14:00～16:00：KD203）の際に申し出て、許可を得ること。（各自印刷した成績通知書持参のこと。）

2. クラス指定

開講科目一覧の各学科指定のクラスを登録すること。

ただし、各学科に各々2クラスが設置されている場合は、学籍番号が奇数の学生はその内の奇数クラスを、学籍番号が偶数の学生はその内の偶数クラスを登録すること。

【その他のクラス指定科目】

○機械設計製作

機械システム工学科

[2023年度生] クラスは学籍番号により次のとおり指定する。

- ①4002～4062のうち、偶数の者 ③4063～4122のうち、偶数の者
②4002～4062のうち、奇数の者 ④4063～4122のうち、奇数の者

機械理工学科

[2023年度生] クラスは学籍番号により次のとおり指定する。

- 学籍番号が偶数の者 … クラス⑤を登録すること。
学籍番号が奇数の者 … クラス⑥を登録すること。

○数学基礎2

機械システム工学科

- 学籍番号が奇数の者 … クラス①を登録すること。
学籍番号が偶数の者 … クラス②を登録すること。

機械理工学科／エネルギー機械工学科

クラス③を登録すること。

○コンピュータ支援設計

機械設計製作を2025年度に登録する者は、機械設計製作のクラスと同一学期のクラスを選択すること。

○数値計算・同演習

機械システム工学科

クラス①に登録すること。

機械理工学科／エネルギー機械工学科

クラス②に登録すること。

3. 先行登録科目

数値計算・同演習、コンピュータ支援設計は先行登録科目のため、登録要領の登録関係日程表や掲示、DUETの「事務室からのメッセージ」等を確認のうえ、登録すること。なお、クラス決定後の登録変更は認められないので、十分に注意して登録すること。 詳細は先行登録科目一覧及びWEB先行登録要領を参照すること。

4. グレードⅡ、Ⅲの科目の履修要件について

グレードⅡおよびⅢの科目を履修するためには、それぞれ標準的な履修年次に達していることに加え、履修要項に記載している要件を満たしている必要があるため、各グレードの必修科目およびA群Ⅰ類（必修選択科目）の科目は順当に登録履修しておくこと。

5. 機械工学実験・機械設計製図・機械設計製作（3年次生）、機械物理実験・機械製図学（2年次生）、製図学（1年次生）のクラスは予め指定されている。ただし、必修科目との時間割重複等の理由によりクラスの変更を希望する者、または前年度までにこれらの科目が不合格あるいは未登録のため再履修を希望する者は、「希望クラス申請カード」を3月28日(金)までに理工学部事務室（事務室開室時間内）へ提出すること。（「希望クラス申請カード」は、事務室で配布する。）決定クラスは理工学部機械系掲示板にて発表する。

なお、クラス変更の有無に関わらず、いずれの科目も必ず一般登録を行うこと。

6. 卒業論文指導の要件について

- a) 履修要項に記載されている要件および卒業必要単位（最少）数表について、よく理解しておくこと。
- b) 卒業論文指導要件の単位数には、卒業必要単位数を超えて修得した単位は算入されない。従って、総修得単位数が102単位に達していても卒業論文の指導を受けない場合があるので注意すること。
- c) 特に卒業必要単位（最少）数表に必要単位数が記載されていない科目区分については算入される単位数について注意すること。
- d) 以上のことは、卒業要件の単位数についても同様である。

化学系学科

2025年度登録に関する注意

- 登録は、本年度の学習、さらには学生生活にとって大変重要である。思い違いや登録ミスによって不利益を被ることがある。
- 登録にあたっては履修要項、開講科目一覧を熟読のこと。

1. 特に注意すべき科目について

1) クラス指定される科目について

○「工学倫理」（機能分子・生命化学科）

・2025年度生：学生IDが**偶数**の学生はクラス①を、**奇数**の学生はクラス②を登録すること。

・2024年度以前生：クラス①を登録すること。

○「解析学Ⅰ・Ⅱ」「線形代数学Ⅰ・Ⅱ」（化学システム創成工学科）

・2023年度以降生：クラス①を登録すること。

・2022年度以前生：クラス②を登録すること

2) 「プログラミング法Ⅱ」（化学システム創成工学科）

「プログラミング法Ⅱ」（2年次）を登録するためには、「プログラミング法Ⅰおよび演習」を昨年度までに登録済みか、本年度に登録していなければならない。

3) 「化学実験Ⅰ・Ⅱ」「化学システム工学実験Ⅰ・Ⅱ」（3年次）を原則登録すること。

2023年度生は、必ずⅠ・Ⅱを同時に履修すること。

※「化学実験Ⅰ・Ⅱ」「化学システム工学実験Ⅰ・Ⅱ」を再履修する2022年度以前生は、登録しなければならない科目(テーマ)を至心館1階中央通路掲示板やDUETにて確認すること。

2. 卒業論文指導(4年進級)要件について

a) 履修要項に記載されている卒業論文指導（4年進級）要件および卒業必要単位（最少）数表をよく理解しておくこと。

〈卒業論文指導（4年進級）要件〉

①卒業必要単位（最少）のうち108単位以上修得

②必修科目修得の条件

③実験科目登録の条件

b) 卒業論文指導要件の単位数には、卒業必要単位（最少）数を超えて修得した単位は算入されない。したがって、総修得単位数が108単位に達していても卒業論文の指導を受けられないことがある。

c) 特に卒業必要単位（最少）数表に必要単位数が記載されていない科目区分については算入される単位数について注意すること。

d) 以上のことは、卒業要件の単位数についても同様である。

2025年度 学外実習Ⅰ ①クラス 共通注意事項

※②③クラスは今年度休講

1. 講義概要

学外実習Ⅰは、学外実習Ⅱへの導入科目に位置づけられ、海外での体験実習（※1）を通して、日本と海外との風土、習慣、文化などの違いを肌で感じ、グローバルな人材とは何か、について考えるきっかけとなる機会を設ける。さらに、事前および事後授業（報告会）を通じた一連のプログラムにより、研修・実習への目的や意識付け、振り返りを行い、積極的に他の参加者と交流を深めることが求められる。

（※1）体験実習は、本冊子のクラス紹介ページを参照すること。

2. 登録に関する注意

- ・科目登録前に必ず①本冊子のクラス紹介ページ、②シラバス、③理工学部 WEB サイトに掲載されている紹介動画を参照し、保護者等とよく相談したうえで、登録すること。
- ・科目登録は、（1）一般登録期間中に D U E T から科目登録を行うとともに、（2）所定の申込用紙に必要事項を記入し、学生証を持参の上、期日までに理工学部事務室（教務係）に提出しなければならない。（所定の提出期日までに申込用紙を提出できない場合は、提出期日前に理工学部事務室へ相談すること。）いずれかの手続きが完了していない場合は、科目登録・体験実習への参加は認められない（科目の登録が削除される）ので注意すること。
- ・所定の申込用紙に関する詳細（提出期日、様式）は理工学部 WEB サイトを参照すること。（https://se.doshisha.ac.jp/se/feature/international/event/extracurricular_training.html）
- ・秋学期開講科目のため、春学期・秋学期それぞれの一般登録期間で科目登録を受け付けるが、春学期一般登録期間中に定員に達した場合は、秋学期の追加募集は実施しない場合があるため、注意すること。
- ・科目登録後のキャンセルは基本的に認めない（ただし、秋学期の一般登録科目登録変更期間中の変更のみ可）。履修中止もできない。科目登録後にやむを得ない理由（本人の入院等）によりキャンセルする場合でも参加費全額返金の保証はできず、所定の取消料が発生する可能性があるため、十分注意すること。
- ・卒業判定までにプログラムが終了しないため、2025年度末（2026年3月）に卒業予定の学生は登録できない。
- ・学外実習Ⅰは秋学期科目だが、秋学期成績公開日には成績付与されないため、履修済み（単位習得済み）にはならず、卒業論文の指導を受けるために必要な単位数（履修要項の各学科の卒業論文指導要件参照）には含まれない。そのため、学外実習Ⅰを含めずに条件を満たすように注意すること。
- ・最大催行人数（20名）を超えた場合は、科目登録後に抽選を行う場合がある。また、最少催行人数（10名）に満たない場合は、本科目を実施できない場合がある。

- ・参加費については、本冊子のクラス紹介ページを参照すること。ただし、費用はあくまでも現時点での概算であり、レートおよび参加者の変動により変更になる場合がある。
- ・本科目の成績は「合格」または「不合格」により評価される。

3. 講義スケジュール（予定） ※詳細は科目登録者決定後、調整のうえ連絡する。

全クラス共通：

第1回事前授業（2025年12月上旬）、第2回事前授業（2026年1月中旬）
海外体験実習（2026年2月末～3月上旬）、事後授業（報告会）（2026年3月中旬）

4. その他注意事項

- ・事前授業、海外体験実習、事後授業（報告会）の全てに必ず参加しなければならない。
- ・本科目の参加者には、本学が提携している留学用海外旅行保険への加入を義務付ける。
- ・本科目の合格者には奨学金が支給される予定。詳細は事前授業にて説明を行う。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況次第で、授業内容の変更やプログラムを中止する可能性がある。

理工学部 WEB サイトは以下のQRコードから参照できます。

また、実施プログラムに関する説明会を春学期期間（5月～6月を予定）に実施予定です。関心のある方は、是非説明会に参加してください。説明会の詳細については、開催が決定次第、掲示・DUET等を通じて案内します。



2単位



学外実習1-1 フィリピン・セブ島 英語研修 & 実践インターンシップ

2026年春休み、フィリピンのセブ島で英語研修とインターンシップに参加しませんか？
フィリピン留学は、物価や滞在費用面の安さだけでなく、日本からの渡航距離や温暖な気候など環境面でも近いことから、非常に人気が高まっています。学外実習1では同志社大学オリジナルのプログラムをご用意。渡航前にオンラインで英会話レッスンを実施するので初めての海外でも安心です。プログラムの前半はフルタイムで英語研修を実施、後半は午前中にビジネス英語、午後は現地企業でインターンシップを行います。将来海外で働きたい方、本格的に留学したい方、ちょっと海外体験をしたい方でも自由に参加していただける内容となっています！

マンツーマン英語研修

インターンシップ研修



インターンシップ用初級ビジネス英語研修



【科目登録上の注意】

- 卒業見込生(4年進級者)は卒業判定までにプログラムが終了しないため、本科目を登録することはできない。
- 科目登録前に必ず①本チラシ、②シラバス、③理工学部HPに掲載している紹介動画を参照し、保護者等とよく相談したうえで、登録すること。
- 科目登録は、一般登録期間中にDUETから登録すること。また、登録者確定後、別途申込書の提出が必要になる。詳細(提出期日、様式)は理工学部HPを参照すること。
- 科目登録後のキャンセルは基本的に認めない(ただし、秋学期の一般登録科目登録変更期間中の変更のみ可)。履修中止もできない。科目登録後にやむを得ない理由(本人の入院等)によりキャンセルする場合でも参加費全額返金の保証はできず、所定の取消料が発生する可能性があるため、十分注意すること。
- 最大催行人数(20名)を超えた場合は、科目登録後に抽選を行う場合がある。また、最少催行人数(10名)に満たない場合は、追加募集を実施するが、本科目を実施できない場合がある。

現地英語研修機関

GLC



日程:2026年2月22日(日)~3月8日(日) 15日間(想定)

費用:約50万円(航空券発券時のレートや参加人数により変動する可能性があります。
なお、本科目の合格者には奨学金が支給される予定。詳細は事前授業時に周知予定。)

対象:理工学部生(卒業見込者(4年進級者)は登録できません。)

登録方法:下記①および②の手続きが必要です。

①一般登録期間中にDUETにて科目登録

②申込書を理工学部事務室に提出

※申込書は理工学部HPからダウンロードすること

申込書提出期限 春学期)4月17日(木) 17:00

秋学期)10月1日(水) 17:00

お問い合わせ:理工学部・理工学研究科事務室

TEL:0774-65-6200 Eメール:jt-koujm@mail.doshisha.ac.jp



授業予定

事前授業① 2025年12月上旬

事前授業② 2026年1月中旬

事後授業(報告会) 2026年3月中旬

※日程が確定次第お知らせいたします。

	2月22日 (日)	2月23日 (月)	2月24日 (火)	2月25日 (水)	2月26日 (木)	2月27日 (金)	2月28日(土)、 3月1日(日)
1 st	到着	オリエンテーション レベルテスト 特別授業	午前/午後 通常授業 (マンツーマン6コマ+Small Group1コマ+プレゼン1コマ)				Free Time
	学生寮宿泊	学生寮宿泊	学生寮宿泊	学生寮宿泊	学生寮宿泊	学生寮宿泊	学生寮宿泊
2 nd	3月2日 (月)	3月3日 (火)	3月4日 (水)	3月5日 (木)	3月6日 (金)	3月7日 (土)	3月8日 (日)
	午前 初級ビジネス英語(マンツーマン3コマ) 午後 インターンシップ研修(企業訪問)					Free Time	帰国
	学生寮宿泊	学生寮宿泊	学生寮宿泊	学生寮宿泊	学生寮宿泊	学生寮宿泊	

学習施設について



■スピーキング重視カリキュラム

授業中の発言割合を生徒8割、講師2割を基準として授業を構成。最大限に話せる時間を確保し、スピーキング力の向上を目指します。

■最高級クラスのITビル内に語学学校？！

24時間セキュリティが効いた最新技術を持ったITビル内に語学学校がございます。クリーンで且つ、様々な粋なおしゃれなこだわり空間で学習意識を高めることが可能です。

■語学学校施設も学習クオリティも国際標準を採用！

学習レベルスキームは国際標準の「CEFR」を採用し、PREP法、アクティブリスニングを取り入れた学習カリキュラムを構築。空間も学習もフィリピンNo1を目指す語学学校です。

なぜフィリピンなのか？

フィリピン留学の特長と言えば、ずばり「マンツーマン」です。欧米諸国に比べ非常に物価が安く、物価が安いという事は人件費も安いということ。必然的にマンツーマンレッスンが多くなり、**学習効果は非常に高くなります**。そして、マンツーマンである以上、部屋内に講師と2人であるため**英語を話さざるを得ない環境**に身を置く事になります。このマンツーマンレッスンこそ、まさに日本人に向けた学習法なのです。

また、有名なリゾート地であるセブ島で実施しますので、授業の後や休日にリゾートでリフレッシュする機会も豊富です。オンとオフの切り替えができる環境も大きな魅力です！

※フィリピンは、**アジアでナンバーワン水準の英語レベル**であり、公用語、第二外国語として英語が普及しています。英語人口は米国、インドに次ぐ世界第3位となっており、新聞やテレビなどの日常生活でも英語が中心です。マンツーマン英語教育と安価な費用により近年海外からの留学生が急増中であることに加え、**グローバル企業のコールセンター数の多さが世界一**であるという点にて裏付けされています。

- ◆費用について 参加費用は航空券の発券時レートにより変動があります。実費が徴収金額を下回った場合は差額を返金します。
- ◆費用に含まれるもの プログラム費用(事前英会話レッスン・現地研修費・滞在費・食費1日3食)、航空賃
- ◆費用に含まれないもの 燃油サーチャージ、関空使用料、旅程表以外に行動する場合の費用や食事代、日本国内における自宅から発着空港までの移動費用、個人的性格の諸費用(電話代、追加飲料費用等)、パスポート取得などの渡航手続費用、超過手荷物料金など